

ニッコリズ

光陰矢の如し

南小生徒指導だより

No. 11

2022.12.22



唐突ですが、私の母校の小学校の朝礼台に『光陰矢の如し』という文字が刻んでありました。

ただの「飾り」にしか見えなかったものを文字として意識するようになった低学年の頃は「の」と「し」しか読めず、中学年で「光」と「矢」が読めるようになり、高学年になってやっと「こういんやのごとし」と通して読めるようになりました。意味を知ったのはもっと後だったと記憶しています。



そして、その意味を、実感としてひしひしと感じるようになったのは…最近です。

少し前ですが、テレビで、脈拍と時間の関係についての特集番組がありました。



一般的に脈拍が速いと時間の経過が長く感じ、脈拍が遅いと時間は短く感じるのだそうです。たとえば脈拍が人間と比べものすごく早い昆虫などは、人間がそれを捕まえようとして素早く網を振り下ろしたとしても、虫にとってはスローモーションと同じようなもので、簡単に逃げられるんだとか。（飛んでいるハエを箸でつまんだ宮本武蔵はすごかった…？）

その説に依るならば、大人と比べて平均的に脈拍の速い子どもは、我々大人が感じるよりも、時間がゆっくり流れている（ように感じる）のでしょうか。そういえば自分も子どもの頃、一日が、一ヶ月が、一年が今よりずっと長かったような…。（先日のNHK「チョコちゃんに叱られる」では大人は生活にトキメキがなくなったから時がたつのが早く感じると、別の視点から解説していましたが…。）

サザエさんのエンドロールの背景が変わると、あ、もうそんな時期か、と季節の変わり目を感じる方もいるのではないのでしょうか。このおたよりのNo.5で書いた♪～だいたい同じような毎日だけど、一つも同じ日なんてないんだ～♪という日々を送っていた子ども達にも年の瀬がやってきました。



今年も新型コロナウイルスに振り回された1年でした。来年こそは、という思いを持ちつつ2学期が、令和4年が終わります。

今年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。



